



# DEN

No.13

2014.8.23  
発行

作業療法を伝える  
NEWS&COMMUNICATION

公益社団法人 大分県作業療法協会 広報誌



## 心豊かに作業療法

### CONTENTS

- 1 教えて作業療法
- 2 まんが作業療法物語 ～就労編～
- 7 インタビュー／菅嶋 陸明氏(高次脳機能障害の認識と就労支援)
- 8 インタビュー／菅嶋 建吾氏(高次脳機能障害の認識と就労支援)
- 9 施設紹介／社会福祉法人 障害者支援施設「にじ」
- 10 施設紹介／一般社団法人 共生の会「工房きらら」
- 11 生活行為向上マネジメント
- 12 以心DEN心
- 13 第17回 大分県作業療法学会報告
- 14 活動報告

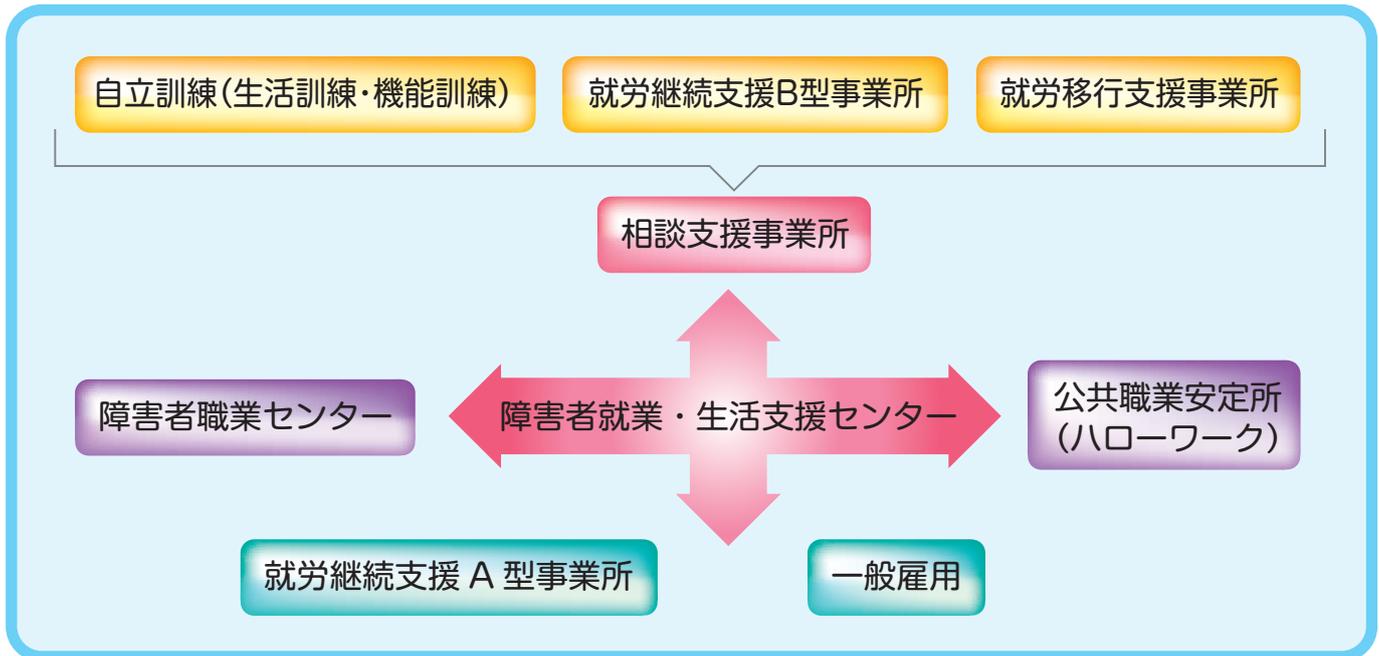


# 教えて! 作業療法

## 就労支援の流れ



私たち作業療法士は、障害のある方の就労や復職を福祉施設や事業所等で直接支援をしたり、医療機関などにおいても関係する機関や相談窓口と連携し、その方の能力に応じた段階的な支援を行っています。



### ★相談支援事業所

日常生活全般に関する相談や、障害福祉サービスの利用などにつなげるための支援を行います。

### ★就業・生活支援センター

働きたい、働いているがうまくいかないなどの相談に応じ、就業と生活の一体的な支援を行います。

### ★障害者職業センター

障害者の職業能力の評価と適職の判定、就労準備支援、ジョブコーチ支援などを行います。

### ★ハローワーク

職業相談や職業紹介を行います。

### ★生活訓練・機能訓練施設

自立した日常生活または社会生活を営めるように、一定期間、身体機能や生活機能の向上を図る訓練を行います。

### ★就労継続支援事業所(A型＝雇用型 B型＝非雇用型)

一般就労が困難な方に対して、就労の機会や生産活動などの機会を提供することによって、その知識の向上を図る訓練を行います。

### ★就労移行支援事業所

就労を希望する障がい者に対して、2年間、生活活動などの機会を提供することによってその知識の向上を図る訓練を行います。

まんが

# 作業療法物語

～就労編～



おおいた りょうた  
大分療太

A君は、24歳のときに職場からの帰宅中、バイク事故で頭を強く打ち脳挫傷で1週間意識のない状態が続きました

治療の甲斐あって2カ月後には会話もできるようになり、奇跡的に体に麻痺も残らず3カ月後には自宅に退院が決まりました



病院での生活においては問題なく過ごせています  
息子さんの回復には私たちも驚いています

本当にお世話になりました  
みなさんのおかげでこんなに元気になって…



ただ、あれだけの大きい事故ですから、自宅に帰ってから生活のしにくさを感じるが出てくるかもしれません

息子さんは、高次脳機能障害が後遺症として残るでしょう  
困ったことがあったら、いつでもご連絡を下さい



先生から「高次脳機能障害」の説明を受けましたが、息子が元気になったことがうれしくて特に気にもとめませんでした

※高次脳機能障害とは  
ケガや病気などにより脳に損傷を負うと、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの症状を引き起こす場合があります  
これらの症状により、日常生活や社会生活に支障をきたす状態です  
高次脳機能障害は外見上分かりにくく、病院内の生活だけでは課題が表面化しにくい場合があります  
(詳しく知りたい方は [http://www.rehab.go.jp/brain\\_fukyu/](http://www.rehab.go.jp/brain_fukyu/) から情報を調べることができます)

～退院して1カ月～

A君は1カ月自宅療養し復職しました

先週お願いしていた書類はできたかな？

えっ？  
何のことですか？

重要な書類だと言っておいたじゃないか

今日の会議資料はこれだから準備を頼むよ

はい、大丈夫です

頼んだ資料と違うよ

最近、仕事に身が入ってないぞ！

復職をしたもののミスばかりが続きました

結局、復職して3か月後には退職

元の職場をやめてからいろんな仕事にチャレンジしてみましたが、どれも長くは続かず職を転々としていました

徐々に自宅から外出する頻度も減り自宅でゴロゴロ過ごすことが増えていきました

うるさいなあ!  
あんな会社辞めたよ  
僕の能力を  
分かってないんだ!

今日、仕事は  
いかになくていいの?

また、仕事の話を聞くとイライラし声を荒げる場面も増えていきました

お母さんは、病院を退院するとき先生から言われた  
「高次脳機能障害」のことを思い出しました

わらをもつかむ思いで病院に相談に行くことにしました

仕事が定着せず、  
数カ月ごとに職場を転々としています  
最近では家で暴れることもあって  
毎日息子に気を遣って過ごしています

もうすぐ受傷して1年ですね  
ちょうど定期受診の時期なので、  
その時に高次脳機能の  
詳しい評価をしてみましょう

～受診の日～

始めまして!  
作業療法士の  
大分療太といいます

今日は事故から1年経過して  
Aさんが持っている現在の能力を  
評価させていただきたいと思います

よろしく  
お願いします

今まで、仕事が上手に進まなかったのは  
この症状が原因かもしれません  
これから仕事に就くための  
職業リハビリテーションをしていきましょう

～評価の結果説明～

Aさんは、新しいことを覚えることが苦手です  
また2つ以上のことを頼まれると  
混乱して何から手をつけてよいのか  
分からなくなる特性を持っています

外来通院で就労に向けたリハビリテーションが始まりました

まずは、注意集中力を高めるため、  
計算や間違い探しなどいろいろなプリント課題を行いました  
さらに、就労に向けた実践的なリハビリテーションも行っていました

記憶障害により、予定を忘れることがあったため  
メモを取る習慣化に向け練習しました

また、仕事の優先順位を組み立てることが難しかったため、  
事前に順番も提示しました

今日の課題は、この5つを行います  
1回しか説明をしませんので、  
しっかりメモを取ってくださいね

これにより、提示された課題は間違いなく  
行えるようになりました

～電卓計算や伝票チェック～

この2枚の伝票を見比べて  
間違いを訂正して下さい  
訂正したら電卓を使って  
合計金額を出して下さい

今日こそ  
パーフェクトを狙うぞ!

集団での訓練も行い、就職した際の対人関係やトラブルが起きた際の対処方法など、  
様々な状況に対応できるような訓練を行っていました

同じ障害を持つ方たちと話し合うことで、  
自分自身の障害とも少しずつ向き合えるようになっていきました

私は、言われたことを  
数分しか覚えられないので、  
メモが欠かせないよ  
特に仕事をするのであれば  
なおさらだよ

そうなんです  
私も最近メモを  
持ち歩くようになりました

Aさんはだんだん注意集中力が向上し、  
1時間程は注意が途切れることなくリハビリを受けることができるようになりました

また少しずつ自分が新しいことを覚えることが苦手であることを自覚し  
次回の予定などメモを取るようになりました



~数週間後~

職業センターでの評価が終了し、地域障害者職業センターの担当の方から  
様々な評価の結果説明を受けました



Aさんはハローワークの障害者窓口で登録し、いくつかお仕事の紹介を受けました

## 相談窓口

就職が決まり就労開始時は、療太も同行し現在までの経過や特性を説明しました

地域障害者職業センターのジョブコーチも利用しAさんは無事に就労することになりました

※ジョブコーチとは：障害者の就労に当たり、出来ることと出来ないことを事業所に伝達するなど、障害者が円滑に就労できるように、職場内外の支援環境を整える人

療太さん、本当にお世話になりました僕、頑張ります

Aさん、これでゴールではありませんここからがスタートですよ  
就労を継続するほうが大変なんですこれからも相談に来てください一緒に考えます

数カ月は、仕事がお休みの日に病院に通ってください困ったことがあったらどのように解決したらよいか一緒に考えますよ

とっても心強いです本当は不安でたまらないんですまたミスするんじゃないかなあって思っていたので

Aさんは倉庫で在庫チェックや伝票整理などをする職場に就職しました

3か月間は外来通院時に職場でのミスや困りごと、できるようになったことなどの報告をしてもらい、改善方法や工夫をアドバイスし、

ジョブコーチとも連絡を取り合い仕事の状況や環境調整など就労継続に向け支援しました

A君  
それが終わったら次はこれを頼むよ

はい！  
分かりました

3カ月後、外来リハビリテーションも終了となりました

# おわり

## 高次脳機能障害の認識と就労支援

脳外傷友の会  
「おおいた」会長 かやしま 萱嶋 むつあき 陸明さん  
*Kayashima Mutuaki*当事者 かやしま 萱嶋 けんご 建吾さん  
*Kayashima Kengo*

- 今回は不慮の事故により高次脳機能障害者となった萱嶋建吾さんと、息子さんを支えながら高次脳機能障害の普及啓発に力を注がれている脳外傷友の会「おおいた」の会長 萱嶋陸明さんにお話を聞いてきました

## Q1. 息子さんが受傷した当時のことをお聞かせ下さい。

A 平成11年6月、息子は大手銀行に就職して間もなく、寮の4階から誤って転落し頭部外傷を受傷しました。意識障害が続き言葉を発することもなく、家族と「一生、寝たきりの息子を支えよう」と決心したほどでした。2か月後、奇跡的に意識が回復したときには涙が溢れ出し、息子の回復への期待と希望が湧きました。

意識が戻りましたが、左の手足に麻痺が残り、トイレや食事など何もかも介助が必要な状態からスタートしました。その際に作業療法と出会いました。日常生活が一人でできるためのリハビリです。日常生活の動作を繰り返し何度も練習を行いました。この経験があったからこそ、身の回りのことが自分自身でできるようになり、就労という次のステップに進めたのだと思います。

## Q2. 就労に至るまでに苦労したことは何ですか？

A 作業療法をはじめとするリハビリのおかげで徐々に息子の状態が良くなっていく反面、新たな課題が出てきました。高次脳機能障害です。高次脳機能障害の症状は、病気や外傷の状態でも個人差が大きく、「記憶する」「計画を立て行動する」「感情をコントロールする」「集中する」といった人間らしい脳の高度な機能が正常に働かなくなります。息子の場合も気が短く、覚えたことをすぐに忘れるなどの症状が残りました。まだ当時は、高次脳機能障害の診断や治療方針も確立していない状況で、以前と違う息子の姿に戸惑いの日々でした。現在の仕事にもすぐに就けたわけではありません。まずは保育園に勤めることから始めました。しかし、左側の麻痺と記憶障害により、仕事量は正社員の半分程度で19か月後には解雇になりました。高次脳機能障害と上手く付き合っていくためにはどうしたらよいか考え、職業準備訓練を受講しました。そういったスキルを活かして、現在パートで勤務しています。再就職することにより目標としていた「社会と接すること」が可能となりました。

## Q3. 就労を継続するために取り組んだことはどんなことですか？

A 今現在も作業療法を継続しています。体の機能を維持することも大切ですが、職場や家族以外とのコミュニティの場所としても非常に大切だと思っています。週1回だけでも作業療法士やそのほかの専門職の方々と仕事の話やたわいもない話をできることで仕事の活力となり就労継続につながるのだと思います。

また、高次脳機能障害について広く世間の方々の理解を深めることも大切です。きっかけは息子が平成13年からボランティアで脊髄損傷の方のところに話し相手として通い始めたことです。楽し

みながら何事にも前向きで一生懸命に参加する息子の姿に刺激され、平成15年8月に高次脳機能障害家族会を立ち上げました。息子が事故にあったとき、どこにも相談するところがなかったことを思いだし、この障害を多くの人に知ってもらいたい、困った方の相談所になればという気持ちで設立しました。家族会の立ち上げから11年経ちましたが、たびたび新聞やテレビにも取り上げられ、多くの場で講演を行う機会も増えました。さらに大分県では、平成17年に医療、福祉関係者や家族会などで構成する任意の団体「大分県高次脳機能障害連絡協議会」の設立や平成19年には大分県高次脳機能障がい支援拠点機関の設置など、飛躍的に高次脳機能障害の普及啓発や支援のネットワークの構築が進みました。



▲当時のことを振り返る陸明さんと建吾さん

#### Q4. 今後の目標、課題はなんですか？

(建吾さん)

A もう一度「働ける」ということが一番の楽しさであり、やりがいです。受傷直後は会話もままならないことが多かったのですが、仕事を通じて人とのコミュニケーションや会話等ができるということが大きな喜びです。今後の目標は、この職場でさらにステップアップしていくことです。また、結婚し家庭を築くことも考えています。現在の私があるのは、積極的にいろいろな活動に参加し行動を起こした結果だと思っています。今までの経験すべてが実を結んだと感じています。



▲豊後にわさき市場で売られている革製品

(陸明さん)

A 「行政・民間企業がこの障害の理解を深め、継続した雇用体制に繋がるようになっていければ」という強い願いがあります。以前よりはかなり障害者を就職させようと門は開かれましたが、雇用や長期契約に繋がっていない現実があります。高次脳機能障害の啓発活動が希望の星となるように活動を続けていきます。

厚生労働省は平成13年から5年間、高次脳機能障害支援モデル事業を実施しました。この事業を基に、高次脳機能障害について診断基準、評価、訓練、支援サービスの提供方法など支援方法の指針が発表され、全国に支援拠点機関が設置されました。その中で作業療法士も支援コーディネーターとして活躍しています。地域社会や就労など社会参加の支援体制の構築が進められました。さらに就労継続支援B型事業所や就労移行支援事業所など社会参加に向けた福祉施設に従事し支援している作業療法士も増えています。

### 豊後 にわさき市場



平成24年3月にオープンした、JR九州大分駅にある複合商業施設。「大分駅から徒歩0分」をコンセプトに連日多くの人で賑わう。その一角に、「高次脳機能障害家族会の店」として障害支援センターがある。障害無料相談コーナーと並び、機能性・デザイン性に優れた手造りの革製品が自慢。来年春には地上22階の新駅ビルが竣工予定。より一層の集客が予想される。

### PROFILE

かやしま むつあき  
菅嶋 陸明

大分市在住。息子の事故による脳外傷をきっかけに大分県で初の高次脳機能障害の「家族会」を立ち上げる。現在にもわさき市場出店をはじめ障害の啓発、行政・民間企業を巻き込んだ支援ネットワーク構築に尽力している。

かやしま けんご  
菅嶋 建吾

大分県生まれ。新入行員として働き始めて直ぐ転落事故により脳外傷を受傷。高次脳機能障害を抱えながらも懸命にリハビリを続ける。現在も持ち前の前向きさで、再就職しキャリアを積んでいる。



# 施設紹介

社会福祉法人 農協共済

## 別府リハビリテーションセンター 障害者支援施設「にじ」

(自立訓練(生活訓練・機能訓練)事業所、就労移行支援事業所)

所在地：別府市鶴見1026-10  
TEL 0977-67-1716

定員：機能訓練60名(利用期間：最長18か月)  
生活訓練14名(利用期間：最長24か月)  
就労移行支援6名(利用期間：最長24か月)

利用者の要件：身体障害者手帳または、精神障害者保健福祉手帳(高次脳機能障害)をお持ちの方／障害福祉サービス受給者証をお持ちの方・15歳から65歳までの方／社会復帰を目指す方  
職員：施設長1名／サービス管理責任者2名／看護師3名／理学療法士2名／作業療法士4名／社会福祉士5名／介護福祉士3名／就労支援員1名／支援員3名／管理栄養士0.5名

### 就労実績

平成22年度：2件(福祉事業所、製造業)  
平成23年度：5件(ホテル清掃業、小売業、サービス業etc)  
平成24年度：2件(介護施設、小売業)



私たちが地域生活を応援します。

### 障害者支援施設「にじ」での就労移行支援について

当施設では、「地域での“生活・生き甲斐”を支援するリハビリテーションの実践」という理念のもと、身体障害や高次脳機能障害のある方に対し、地域で自立した生活を営むことを目的に「自立支援型の活動を中心としたリハビリテーション」を提供しています。当センターは大分県の高次脳機能障害支援拠点として活動しており、「にじ」には県下はもとより九州管内から高次脳機能障害を呈した方が入所・通所されています。訓練内容としては、認知面のリハビリをはじめ、障害の理解促進や代償手段の定着、規則正しい生活習慣を身につけてもらうよう支援を行っています。また、地域生活に向けての自動車運転練習や調理訓練、公共交通機関の使用に向けての訓練にも取り組んでいます。

今回は、様々な「にじ」のプログラムの中から特に復職や再就職などの「就労」に向けた取り組みについて紹介します。「にじ」の就労移行支援では、就労体験プログラムと実践プログラムを通して、就労のための知識や職業準備性を高める支援を行っています。特に、支援の中で力を入れている点は施設内・外での実習です。施設内では清掃作業や備品管理、OA作業※、育てた植物のレンタル・販売業務などを行い、自身の職業適性を見極めることができるよう支援しています。施設外実習では、スーパーや葬祭場、旅館、介護施設、野菜農家と提携し、利用者に合わせた実習を提供しています。就労された後は、フォローアッププログラムもっており、長期間の就労継続ができるよう、訪問・電話相談の体制や、障害者就業・生活支援センターなどの各関係機関との連携にも力を入れています。

今後も、就労を含め地域で活躍できる方を増やしていけるよう努力していきたいと思っております。高次脳機能障害などにより復職・再就職でお困りの方は、お気軽にご相談ください。

※OA作業とは、主にパソコンを使用した事務作業で、ワードやエクセルを使用した、文書やグラフ作成練習のことです。



自動車実写評価風景



ねぎ農家での実習



就労移行支援のミーティング場面



外出訓練の様子

記事担当者

野村 心



# 施設紹介

## 一般社団法人 共生の会 「工房きらら」

### (就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所)

所在地：大分市津守888-7

TEL 097-535-8115

定員：就労継続支援B型14名、就労移行支援6名

利用者の要件：身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を所持している方、精神通院医療をご利用の方

職員：5名(うち作業療法士1名、社会福祉士1名)



私たちが地域生活を応援します。

### 当事業所の取り組みについて

当事業所は平成19年に、任意団体「福祉作業所工房きらら」として開所、その後活動が認められ、一般社団法人を取得、地域活動支援センターを経て、現在は「就労継続支援B型事業所」「就労移行支援事業所」の指定を受け利用者の方とともに頑張っています。

当事業所の利用者の方々は、身体・精神・知的に障害があり、就学や就労に様々な問題を抱えている方々です。利用者が、社会復帰できるように個々にあった指導をするために幅広い支援とアプローチをしています。事業所の主な作業内容は、革製品作成、名刺印刷、関連病院と施設の清掃です。利用者和社会の接点を増やす目的で、事業所外での活動にも積極的に取り組んでいて、その一つに、大分駅構内にあるにわさき市場での革製品販売があります。にわさき市場での革製品販売は高次脳機能障害の啓発活動も兼ねており、窓口では障害に対する相談も受け付けています。この活動は脳外傷友の会「おおいた」の家族会のみなさまをはじめ、ボランティアの方々のご理解とご協力があって継続することができています。

高次脳機能障害を有する利用者は、身体的な問題は少ないものの就学や就労に支障が多いのも事実です。実際、職場の上司や同僚にこの障害が理解されずに、対人関係などのトラブルで職を失う方が多いです。しかし、職場の理解や環境調整により、就労が十分可能な高次脳機能障害者も大勢います。少しでも高次脳機能障害を社会に認知し知っていただくことが重要だと思っています。

今後も、利用者の自立(律)が図れるように、福祉や医療との連携はもちろんのこと、行政とも連携が図れるようにシステムを構築し、一人でも多くの高次脳機能障害者やその他の障害者の方々が、社会で生活ができるように支えていきたいと考えています。



革の裁断作業



金具の取り付け作業



革の手縫い作業



名刺印刷・裁断作業

記事担当者

日吉 雄大



# 生活行為向上マネジメント

事例編

前回、「生活行為向上マネジメント」の概要を紹介しました。生活行為向上マネジメントは、したい生活行為ができるようになり、毎日の生活が豊かになることを目指しています。今回はその生活行為向上マネジメントを具体的に使用した事例を通してご紹介いたします。

## 事例

70歳代女性。2年前、脳梗塞で左半身に麻痺が残りました。左手足の麻痺は軽く、杖や手摺りを使用して歩くことができます。「左手を動かしたい。もっと早く歩きたい。」と希望され、左手を動かす練習や歩く練習を中心にリハビリを行ってきました。左手足の麻痺は多少改善しましたが、自宅で過ごすことが多く、外出は病院への通院のみで、家ではテレビを見ていることが多く、病気になる前に行っていた家事は一切夫に任せていました。



## 生活行為向上マネジメントを導入すると…。

### 面接を通して対象者が望む(意味のある)作業を聞き出します。

どのような生活を望んでいるのかを対象者自身に考えていただき、本人の思いを引き出します。

事例の場合 目標『歩いて、買い物かごを持って、買い物をしたい』



### 目標となった行為を制限している要因、対象者の能力を踏まえ具体的に目標を考えます。

- ・近所のスーパーまで交通手段はない。しかし、300m程度であり、歩いて行くことも可能である。
- ・休まないと体力が持たないが、休憩することで50mは3分で行けるようになる。

事例の場合 合意した目標として『近所のスーパーに歩行器を使用して買い物に行ける。』と設定。



### 具体的な計画を立て、対象者と共に行っていきます。

- 「いつ」「どのように」「何をするのか」「いつまでに」と具体的に立案し、実行します。
- ・スーパーと家までを歩行器で歩く練習やカートを使って品をかごに入れ、移動する練習。
  - ・自己訓練として、夫と実際に近所のスーパーに出掛ける練習。(リハビリ時間以外でも)

課題となったものをリハビリの中に反映させていきます!!



## 結果 ~2ヶ月後~

週に1度、歩行器で買い物に出掛けられるようになりました。また、買い物ができるようになったことで、自宅で料理に挑戦し夫に披露したり、地区の公民館まで出かけ地域の人達との交流が再開できました。

## まとめ

生活行為向上マネジメントを導入したことによって、対象者の意欲が上がり、地域生活がより活動的に、よりいきいきと過ごすことが可能となります。



当協会は生活行為向上マネジメントを医療・介護の領域での活用に加え、地域ケア会議や介護予防・日常生活支援総合事業など地域生活全般で活用し、県民の皆様の健康増進に寄与することを目指しています。

## 夢を叶える職業です。

常務理事 後藤 英子

(大分リハビリテーション専門学校)



私は、よく「生まれ変わっても作業療法士になりたい」と口にしていきます。その大きな理由は、「作業療法士は夢が叶う仕事だから」です。夢が叶うというのは快感以外の何物でもありません。世間一般の様々な職業を熟知しているわけではないのですが、夢がこれほど叶う仕事は他にないのではないかと考えています。そして、その夢はもちろん私の夢ですが、同時に誰かの夢でもあります。

ずっと以前、私がお逢いしたAさんは、内臓の病気で外科手術を受けた直後に脳卒中を発症した50歳代後半の女性でした。「手術を受けるような病気になったことだけでもショックだったのに…、どうして。もう何もできない。」と麻痺した右半身のリハビリテーションに取り組む意欲も失っている状態でした。それでも毎日通ってくるご主人のために、手術の傷と痛みの残るお腹をかばう動作を必死に練習するAさん。治療を担当した私は、何とかこれまでのAさんを取り戻していただきたいという夢を抱きました。そしてAさんの毎日の生活がどうだったのか、本人とご主人にじっくりお話を伺い、毎日Aさんと一緒に考えながら、ご近所でも料理上手で評判だった主婦業をもう一度やっていただく夢を追いかけてきました。そして、とうとう入院4週目に調理訓練を実行、これはご主人には内緒で、完成時刻もご主人が来る時間に合わせて行いました。ホカホカと湯気の上がるお味噌汁を前にご主人がひと言、「夢のようや…。もう二度と食べられんと思ってた。」みんなが笑顔で泣きました。その後Aさんは掃除・洗濯・アイロンがけ、娘さんご一家との外食と、次々にやれないと思っていたこれまでの生活を取り戻し自宅へと退院しました。1か月後、外来にやってきたAさんが「近所の人に煮物を頼まれて忙しい。私が病気とみんな忘れとる。」と満面の笑みで話すのを見て、私は夢が叶ったと思いました。その後も私は、いろいろな方と出会い、何度となくこういう経験をさせていただきました。

今の私は、作業療法士養成校で仕事をしています。「作業療法士になるという夢を持った学生さんの夢を叶える」ことで、「作業療法を受ける方々の夢を叶える」という夢を叶えようと日々試行錯誤していますが、結構夢が叶うのです。ああ、これだから作業療法士はやめられない…。やはり、人間に生まれ変わったら絶対に作業療法士になろうと思います。

## 第17回 大分県作業療法学会 創造 ～まちづくりから広がる作業療法の可能性～

開催日時：平成26年2月2日(日) 9:35～16:20

開催場所：ビーコンプラザ 国際会議室 小会議室31・32・33

- 内 容：①特別講演 **地域と作業とまちづくり**  
講 師： 西上 忠臣 氏(特定非営利活動法人ちゃんくす代表・作業療法士)
- ②講 演Ⅰ **大分県における地域包括ケアシステムの取り組みについて**  
講 師： 田井 祐二 氏(大分県福祉保健部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進班主事)
- ③講 演Ⅱ **地域ケア会議における作業療法士の役割とは**  
講 師： 佐藤 暁(当協会常務理事／井野辺病院)
- ④講 演Ⅲ **大分県作業療法協会広報局のまちづくりへの取り組み**  
講 師： 平野 政治(当協会常務理事／明和記念病院)
- ⑤一般演題発表(29演題)  
⑥学会長賞表彰式

参加者数：227名



学会長賞を受賞した小西 美喜子氏(デイサービス楽 二目川センター)と石井 瑛氏(川蔦整形外科病院)



地域ケア会議の実績を報告する田井氏

学会テーマを「創造～まちづくりから広がる作業療法の可能性～」と題し、第17回大分県作業療法学会を開催しました。特別講演は広島県三原市で自治体や大学と協力しながらまちづくりに参画している西上氏から、事例を踏まえた実践的な講義を拝聴し、分野を問わない作業療法の奥深さを感じました。

また、大分県の地域包括ケアシステムの取り組みや地域ケア会議の成果報告として、大分県福祉保健部高齢者福祉課の田井氏をお招きし、加えて当協会常務理事佐藤氏による講演でも地域ケア会議での作業療法士の役割をお話いただき、まさに今、作業療法士が地域から期待されていることを再確認しました。また当協会常務理事の平野氏より、広報局の事業報告があり、会員が協会活動を通して広くまちづくりに参画するきっかけとなっていました。

午後からは口述発表とポスター発表に分かれて一般演題発表が行われました。今回から会場が3会場になりましたが、どの会場も盛況で終わりました。特に、今回から新設した学会長賞には多くの参加者が興味を示しており、初の演題に選ばれた川蔦整形外科病院の石井瑛氏、デイサービス楽二目川センターの小西美喜子氏には賞状と記念品が贈られました。

今後も地域での作業療法の可能性を追求し、地域で求められるために、一層取り組まなければと感じた学会でした。

# 活動報告 2014年2月▶2014年5月

## 学術事業

### 【学会・研修会等】

#### 学術技能研修会Ⅳ (参加者：63名)

日 時：平成26年2月9日(日) 10:00～12:30  
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」  
内 容：「緩和期・終末期に求められる作業療法士の役割と活動」  
講 師：東谷 成晃 氏  
(戸畑リハビリテーション病院 作業療法士)

#### 学術技能研修会Ⅳ (参加者：40名)

日 時：平成26年3月9日(日) 10:00～12:30  
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」  
内 容：「精神科領域におけるリワークプログラムの実際」  
～地方都市における実践と課題～  
講 師：龍 亨 氏 (不知火病院 作業療法士)

#### 研修会講師養成道場1 (参加者：10名)

日 時：平成26年 2月16日(日) 9:30～16:40  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：①「伝える法則」  
講 師：佐藤 暁 氏  
(常務理事/井野辺病院)  
②「プラン作成方法」  
講 師：工藤 友治 氏  
(教育研修部部長/大分下郡病院)  
③「プレゼンテーションの作り方」  
講 師：洲上 祐亮 氏  
(湯布院厚生年金病院)  
演 習：「個人テーマプラン作成」

#### 研修会講師養成道場2 (参加者：10名)

日 時：平成26年 2月27日(木) 19:30～21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：個人講義発表会①

#### 研修会講師養成道場3 (参加者：10名)

日 時：平成26年 3月6日(木) 19:30～21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：フィードバック・講義プラン作成

#### 研修会講師養成道場4 (参加者：10名)

日 時：平成26年 3月18日(火) 19:30～21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：個人講義発表会②

## 公益事業

### 【人材派遣】

#### 地域ケア会議 助言者派遣

##### 豊後高田市

2月13日(木)、2月27日(木)、3月13日(木)、3月27日(木)、  
4月24日(木)、5月22日(木)

##### 杵築市

2月5日(水)、2月12日(水)、2月19日(水)、2月26日(水)、  
4月9日(水)、4月16日(水)、4月23日(水)

##### 豊後大野市

3月7日(金)、3月14日(金)、3月28日(金)、5月2日(金)、  
5月9日(金)、5月16日(金)、5月23日(金)、5月30日(金)

##### 臼杵市

3月4日(火)、3月11日(火)、3月18日(火)、3月25日(火)、  
5月1日(木)、5月15日(木)、5月22日(木)、5月29日(木)

##### 津久見市

2月13日(木)、2月27日(木)、4月10日(木)、4月24日(木)

##### 別府市

3月11日(火)、3月25日(火)、5月13日(火)、5月27日(火)

##### 由布市

3月26日(水)、4月23日(水)

##### 国東市

2月13日(木)、2月27日(木)、3月27日(木)、4月24日(木)、  
5月15日(木)、5月22日(木)

##### 日出町

3月4日(火)、3月18日(火)、5月20日(火)

##### 九重町

2月20日(木)、4月17日(木)

##### 中津市

3月6日(木)、3月13日(木)、3月20日(木)、3月27日(木)、  
5月1日(木)、5月8日(木)、5月15日(木)、5月22日(木)、  
5月29日(木)

##### 日田市

2月12日(水)、2月28日(金)、4月25日(金)

##### 玖珠町

3月19日(水)、5月28日(水)

##### 佐伯市

2月13日(木)、2月20日(木)、2月27日(木)、3月13日(木)、  
3月27日(木)、4月24日(木)

##### 竹田市

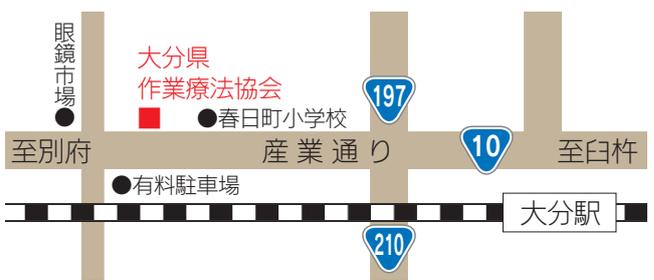
4月23日(水)、5月28日(水)

理事会報告 日 時：平成26年 3月 14日(金) 19:00～20:00  
場 所：大分県作業療法協会ビル 2階会議室  
参加者：理事11名 監事1名



# 作業療法士は、

そのひとの人生が生き生きとしたものとなるよう、仕事、遊びなどの日常生活のなかでの活動(作業)をとおして、こころとからだを元気にするリハビリテーションの専門職です。



リハビリテーションのことや、作業療法のことでは分からなかったり、お困りのことがありましたら、右記までご連絡ください。

公益社団法人 大分県作業療法協会  
〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル  
TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663  
<http://www.oita-ot.com>

●本誌に掲載している写真については、すべてご本人・施設の了承を得ています。